

がん相談支援センター インフォメーション VOL.2

平成21年4月より大阪府がん診療拠点病院に！

八尾市立病院は地域の中核病院として高度医療・救急医療・周産期医療・小児医療をはじめとする地域の医療ニーズに応えるべく医療機能の整備・充実に取り組んでいます。平成21年4月、これまでの診療実績や診療体制、診療機能等の審査を踏まえ、大阪府が創設した新たな制度に基づき、大阪府の「がん診療拠点病院」に指定されました。

がん診療に不可欠な“チーム医療”（適切で安全な診療）

肝・胆・膵領域のがん診療を専門とする佐々木院長をはじめ、5大がん（肺・胃・肝・大腸・乳がん）だけでなく、泌尿器科・婦人科・耳鼻咽喉科・口腔外科領域のがんや造血器腫瘍まで幅広くがん診療に対応できる専門のスタッフを有しているのが当院の特長です。

検査や診断結果をもとに、複数の専門スタッフによるカンファレンスで最適な治療方針を決定。腫瘍の状態・大きさ・発生部位といった腫瘍の情報だけではなく、過去の病歴・現在の併存症等の患者情報を総合的に判断し、手術療法（開腹手術・内視鏡手術・腹腔鏡下手術等）、放射線療法、化学療法など、最も適切と考えられる治療方法を選択します。

入院中は医師・看護師だけではなく、薬剤師・臨床検査技師・栄養士・MSW・臨床心理士等、様々な医療スタッフが必要に応じてチームとして心身のケアを実施します。入院時に立てた診療計画をもとに、治療部位だけでなく全身状態を総合的にケアすることにより、早期の社会復帰・生活復帰を可能にします。

また外来診療においては通院治療センターを設置し、抗がん剤による化学療法にも積極的に取り組んでいます。平成21年7月からは、新たに化学療法の専門医がスタッフに加わり、各主治医との連携により治療効果を上げています。



がんは早期発見がポイント！（検査・診断機能）

がんに関する診断においては、病理診断科や放射線科の専門医が常勤スタッフとしているため、精度の高い迅速な診断が可能です。CT・MRI・内視鏡・マンモグラフィ・超音波検査機等の検査機器も充実しており、治療だけでなく検査・人間ドック等による早期発見にも役立っています。

もっと「がん」について詳しくなりましょう（市民医療公開講座）

八尾市立病院では、がんに対して関心を持ち、新しい情報と正しい知識を身に付けていただくために「市民医療公開講座」を開催しています。専門医による講演とパネルディスカッション、質問コーナー等を設け、毎回100名近い方にご参加いただいております。

八尾市の市政だより、病院ホームページ等に開催のお知らせを掲載していますので、ご興味をお持ちの方はぜひご参加ください。



疑問・悩みや心配事...、まずご相談ください（がん相談支援センター）

がん相談支援センターでは「がん」に関する疑問や悩み・心配事（病状、治療、薬剤、看護、介護、食事、検診、医療費、精神的不安など）に対して、問題解決のお手伝いや助言をさせていただきます。

ご相談は、まず医療ソーシャルワーカー・臨床心理士等の支援相談員がお受けし、必要に応じて各専門スタッフと連携し対応します。ご相談者の問題や不安を少しでも軽減すべく取り組んでおりますので、どうぞお気軽にご利用ください。

八尾市立病院では、専門化・複雑化が進む医療ニーズに応えるべく、診療体制・機能を充実させるとともに、地域の医療機関との連携によって診療圏全体の住民の医療サポートに取り組んでいます。皆様にご安心・信頼していただける医療を提供できるよう取り組んでおりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

スポットライト！「化学療法の専門家」

～ 化学療法科部長 烏野隆博



Q 烏野部長の略歴を教えてください。

A 鳥取大学を卒業後、大阪大学で研究生生活を終え、平成5年から大阪府立成人病センターで15年間、血液内科副部長として骨髄移植を中心に白血病・悪性リンパ腫などの血液悪性疾患の治療を行ってきました。最後の3年間は臨床腫瘍科という科を立ち上げ、主任部長として、乳がん、胃がん、肺がん、大腸がんといった固形がんに対する抗がん剤治療も併せて行っていました。

本年6月に八尾市立病院・化学療法科部長として着任。専門は血液悪性腫瘍の治療、各種固形がんの抗がん剤治療や感染症です。また日本血液学会、日本造血細胞移植学会等、様々な学会の評議員も努めています。

Q 化学療法科とはどんな科ですか。

A 化学療法科というのは、抗がん剤の使用に慣れた医師（臨床腫瘍医あるいは腫瘍内科医）が安全性と有効性を考えて抗がん剤治療を行うことを目的としている科です。抗がん剤は、一個の細胞ができる一つ一つの過程をブロックすることによりがん細胞を死滅へ導く薬ですが、正常細胞の増殖過程もブロックすることにもなり、副作用というかたちで現れてきます。ですので、その取り扱いには十分注意が必要です。

Q どんな症例の場合に化学療法を選択されますか、またどのような治療効果が見込まれますか。

A 抗がん剤に対する反応はがんによって違うので、どういう患者さんに使用するか、言い換えればどういう目的で使用するかに関しては、がんの種類と進行の程度によって大きく違ってきます。

抗がん剤治療には4つの目的があります。1つ目の目的は、治癒を目指して行うものです。これは白血病や悪性リンパ腫といった病気に対する抗がん剤治療です。2つ目は手術前に行う抗がん剤治療です。進行がんではあるけれども化学療法とその後に行う手術とで、完全にがんを取りきる目的で行う化学療法です。3つ目は手術後に行われる抗がん剤治療です。治癒と考えられる手術ではあるけれども、がんが進行している状態なので再発の危険性が考えられる、といった場合に行います。4番目の目的としては、残念ながら手術によって切除が不可能ながん、例えば、骨や肺などに転移しているがんに対する化学療法です。

Q 患者として化学療法を受ける前に理解・認識しておくべきことがあれば教えてください。

A 一番大切なことは、ご自分の病気について詳しく知ること、医師から説明を受け、よくご理解されることだと思います。疑問や不安に思うことがあれば紙に書いて医師に質問をし、その答えを必ずメモをする等の工夫をされるのも良いのではないのでしょうか。

その上で、もし説明内容で引っかかることがあれば、他の病院へ“セカンドオピニオン”というかたちで説明を受けに行かれるのも良いのではないかと思います。遠慮をする必要は全くありません。逆にセカンドオピニオンを受けることによって主治医との信頼関係が強くなる場合が多いようです。

Q 本年6月に八尾市立病院に着任されましたが、八尾市立病院の印象を教えてください。

A まず立派な病院であることに驚きました。また医師をはじめ医療従事者すべての方々の向上心あふれる姿勢に感心いたしました。ここで新たに化学療法科を立ち上げましたが、将来が非常に楽しみです。

Q 今後、八尾市立病院でどのようなことに取り組みたいとお考えですか。

A がん治療においては手術療法、放射線治療、そして抗がん剤による化学療法があります。もちろん、化学療法科の役割はその抗がん剤治療にあります。がん患者さんに携わる医師というものは、がんがもたらす全ての事象に対処して必要があると思っています。

例えば、“痛みの問題”や“がんであることを告知された精神的問題”を抱えている方々が多くおられます。これらの問題を全人的にとらえ、早期から緩和医療あるいは臨床心理士やケースワーカーの方々に介入をしていただくことによって多職種にまたがる横断的治療を展開する……、そういう“まとめ役”または“舵取り役”になりたいと考えています。

Q 烏野部長はプライベートについても少し教えてください。

A 趣味はガーデニングと体を鍛えることです。また何においても好きなのは、“岸和田だんじり祭り”。産声を上げたときから、父親に肩車をしてもらって“だんじり”のそばを走っていました。今まだ現役で参加しています。

“ガーデニング”と“だんじり”、静と動を併せ持った「熱き医師です！」



がんと食事について

栄養科係長:黒田 昇平

全く「がん」にかからないようにすることは無理ですが、ある程度の予防は可能です。そこで日常生活の中で、「できるだけがんの原因を追放していこう」ということから生まれたのが『がんを防ぐための12ヶ条』です。

【がんを防ぐための12ヶ条】

- バランスのとれた栄養をとる
- 毎日、変化のある食生活を
- 食べすぎをさけ、脂肪はひかえめに
- お酒はほどほどに
- たばこは吸わないように
- 食べものから適量のビタミンと繊維質のものを多くとる
- 塩辛いものは少なめに、あまり熱いものはさましてから
- 焦げた部分はさける
- かびの生えたものに注意
- 日光に当たりすぎない
- 適度にスポーツをする
- 体を清潔に

国立がんセンターがん対策情報センター
がん情報サービス [ganjoho.jp] 参照



～ と ～ の8項目は食事に関する項目です。8項目と聞くと何か特別なことをしなければいけないのではないと思われるかもしれませんが、よく読んでいただくとがん予防だけではなく日頃の食生活における基本でもあります。8項目をまとめると以下のような3項目になります。

1. 腹八分目を基本に食べすぎに注意し、色々な食品(食材)を組み合わせる栄養バランスよく食事をする
2. 積極的に野菜をとり、油脂・塩・アルコールは控える
3. 熱いもの・焦げたもの・かびが生えたものはさける

食事とは好きなものを食べてお腹を満たすためだけではなく、日頃の食生活をふり返り、食べることに興味をもっていただくきっかけになればと思っております。この機会に「食べる(食事をする)」ということはどういうことが考えてみませんか？

ミニ勉強会 「がんと食事について」

12月7日(月)14:00～15:00 当院2階 栄養指導室にて

もっと食事について知りたいと思われた方、一緒に食事について学んでみませんか？参加を希望される方は「がん相談支援センター」までお申し込みください。

がん相談支援センター TEL.072-922-0881

心理カウンセリングのご案内

臨床心理士は、病院を訪れる患者さんやそのご家族に対し、カウンセリングや芸術療法などの心理療法や心理検査などを用い専門的援助を行っています。様々な心の悩みや問題の改善に向けて一緒に考えていきましょう。



がんという病気を抱えて毎日の生活を送っていると、不安や心配事が増えたり、気分が落ちこんだりするのは当然のことです。気分の変化は病気に重要な影響を与えることもあり、臨床心理士は、そういう「こころ」の不安や辛さが少しでも和らぎ、前向きに病と向き合えるためのお手伝いをしたいと考えています。患者さんからは「夜になると不安になり、イライラしたり、色々考えてしまったりする」というお話をよくお聴きします。ひとりで悩んでいるときは堂々巡りになってしまう事でも臨床心理士とのやりとりを通して、自分の中の考えが徐々に整理されていき、それまで見えていなかった事に気づくことがあります。「繰り返し話すことで少しずつ気持ちの整理をしている」というお声をいただいたりもしています。少しでも気持ちが軽くなり、明るく生活していただけるよう、一緒に考えていきましょう。

【料金】 1回(50分) 3,000円(税込)

入院中の患者さんは無料です。

臨床心理士によるカウンセリングですので薬の処方はいたしません。

がん相談支援センターには・・・「どのような相談があるの？」

がん相談支援センターでは、がんに関する疑問や悩み・心配事などについて、患者さんやご家族と一緒に考え、より良い方法を探すお手伝いや助言を行っています。今までの相談事例としては次のようなものがあります。

不安や疑問・心配など

治療費が高額になるので困っているのですが...

がんの治療法や検査について教えて欲しい。

自宅でのケアの方法が分からず困っている。

イライラする。気持ちが落ち込んで何もできない。



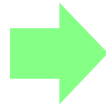
紹介・説明・対応の事例

高額療養費制度などの社会制度を紹介し、少しでも負担が軽減されるよう相談にのっています。

がんに関する冊子やパンフレットを活用し説明。また、当院での具体例も紹介しています。

専門の看護師等がケア方法をアドバイス。必要に応じ訪問看護・介護の在宅サービスについても紹介。

相談支援センターの臨床心理士が個別にお話を聞き、相談にのっています。



そんな方法があるとは知らなかったので良いことが聞けた！



分からないことだらけで誰にも相談できず不安でした。いろいろ相談できて安心しました

実は.....「何を相談していいか分からないけど、とにかく話を聞いて欲しい!」とご相談に来られる方も多くおられます。話すことでご自身の気持ちを整理することができたり、どのようなことを心配しているのか、具体的にわかることもありますので、まずはお気持ちをお聞かせください。

がんになっても、変わらず自分らしく生活することができるよう、一緒に考えていけたらと思います。お気軽にご利用ください!

がん相談支援センター

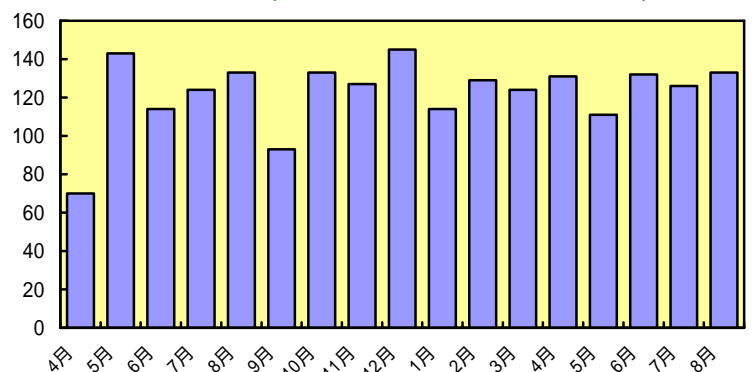
受付時間：月曜日～金曜日（祝日を除く）
午前9時半～午後4時半

対象者：中河内二次医療圏（八尾市、東大阪市、柏原市）を中心とした地域の方。
当院での受診（受診歴）の有無は問いません。ご本人、ご家族、知人、医療関係者など、様々な方からの相談をお受けいたします。

費用：無料
ただし、セカンドオピニオン外来・継続の心理カウンセリングは有料です。

受付・お問い合わせ：
がん相談支援センター
TEL . 072-922-0881（代表）

相談実績（20年4月～21年8月）



毎月100件を超えるご相談に対応しています。
お気軽にご利用ください。